
基本、裏方の錬金術師

志ノ塚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

基本、裏方の錬金術師

【Nコード】

N7385Y

【作者名】

志ノ塚

【あらすじ】

「鋼の錬金術師」の二次創作です。

男主が軍部で頑張る予定。

原作沿い/不定期更新。

女性向け表現は薄味に仕立ててますが、気になる方はご注意下さい。頭スツカラカン状態で書き殴ったときのものなので、矛盾点があるかもしれません。ご容赦下さい。

個人運営のサイト「Tarattottara...!!」で発表

していたものを、こちらでも発表させて頂きました。

昔の話（前書き）

序章です。

昔の話

薄暗い森を抜けると麦畑が見えてきた。

幌ほろの隙間から青々とした麦の波を眺めていた少年は、溜め息を洩らして頼杖をつく。あの麦畑を裸足で走り回ったらどんなに気持ちが良いだろう。日の光を目一杯浴びて、大声ではしゃぎ回れたら最高だろうな。少年は埃臭い馬車の中に飽き飽きしていたのだ。

「テオ、駄目よ」

母親のほっそりとした白い手が、少年を幌馬車の奥へ引っ込むように手招いた。

その時、馬車を引っ張っていた馬が激しく嘶き、荷台が大きく揺れた。バランスを崩した少年は慌てて縁に掴まった。

「なに？どうしたの？」

不安げな母親の声に、

「あいつらだ。捕まってる!!」御者台にいた父親が鋭く叫ぶ。ピシッと鞭を打つ音が響き、勢いよく走り出す馬車。同時に背後から、荒々しい蹄の音と、ピストルの乾いた音が幾つも聞こえてきた。

「お前たちはこっちにおいで!」

幌で覆われた荷台の中、母親は二人の子供を引き寄せると、積み上げた砂袋の影に押し込んだ。少年は不安げに縮こまる妹のエレナの手を握っていた。

「ハーシー駆ける!!もつと速く!!」

父親の声が幌越しに聞こえてくる。

ハーシーは馬車を引っ張っている馬の名前で、彼の家から連れてきたのだが、足はあまり速いほうではなかった。どちらかと言うと荷物を運ぶ方が向いている馬なのだ。父親が言っていたから、追っ手に捕まるのも時間の問題かもしれない。後ろから聞こえてくる蹄の音は、さっきより大きくなっていた。

「母さん、僕も戦う」

そう言った少年に、母親は端正な顔を歪めて眉をしかめた。

「馬鹿なこと言っんじゃないの」

揺れる馬車の中で、母親は少年に折り畳んだ布を握らせた。

「これは何？」

「母さんの大切なものよ。肌身離さず持ってなさい」

「リデイ！」

父親が叫んだ。

「準備をしておけ！！」

「そんな、なんとかならないの!？」

「なんとかするさ。だが保証がないんだ。準備をしといてくれ」

「……………っ、分かったわ」

強張った顔で小さく息を吐いたりリディアは、手近にあった麻袋に地図とコンパスと小さな手帳を入れ、それをキョトンとする息子に手渡した。

「これを持っていなさい。エレナ、こっちへおいで」

丈夫なロープの片端を息子のテオに、もう片方を娘のエレナにしっかりとくりつけ、兄弟が離れないようにした。

「母さん、これは」

「いい2人ともよく聞いて」

不安げな声を上げる子供たちに、リディアはよく通る声で言った。

「これから少し危険な道を通らなきゃならないの。ちょっと揺れるから、2人とも離れないように手をつないでなさい」

それまで怯えたようにテオの指を握っていたエレナが、青い瞳を母親に向けた。

「危険な道？怖いのか？」

「いいえエレナ。お兄ちゃんがいるから怖くないわ」

リディアは微笑んで娘の頭を撫でると、少年に向き合った。

「テオ。エレナをしつかりと守るのよ」

「うん」

「母さんは御者台の方に行くから、2人はここにいてちょうだい」

子供たちの頭を代わる代わる撫でると、リディアは御者台にいる夫の横へ移動した。

「大丈夫か」

「ええ」

馬車は麦畑を通り過ぎ、岩肌が見える溪谷へとさしかかっていた。

青白い顔の妻を横目に、ブライトは手綱を操作しながら声を低くした。

「奴らが二手に分かれた。この先で待ち伏せする算段だろう」

「その前に何とかしてみせるわ」

リディアは両の手のひらを合わせた。

• ۲۲۲

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7385y/>

基本、裏方の錬金術師

2011年11月22日02時56分発行